

本日の参考音源

- ♪ ウナ・セラ・ディ東京 / 西田佐知子
作詞：岩谷時子
作曲：宮川 泰

- ♪ ほんきかしら / 島倉千代子
作詞：岩谷時子
作曲：土田啓四郎

- ♪ 夜明けのうた / 岸洋子
作詞：岩谷時子
作曲：いずみたく

- ♪ 西宮市立西宮高校・生徒歌
作詞：岩谷時子
作曲：いずみたく

- ♪ 愛の讃歌 / 越路吹雪
訳詞：岩谷時子
作詞・作曲：E.ピアフ M. モノー

- ♪ サン・トワ・マミー / 越路吹雪
訳詞：岩谷時子
作詞・作曲：S.アダモ

- ♪ 春の唄 / 石川さゆり
作詞：喜志邦三
作曲：内田 元

- ♪ 文教住宅都市西宮の歌
作詞：喜志邦三
作曲：鎌田廉平

- ♪ あゝ甲子園 / 三波豊和
作詞：麻生香太郎
作曲：三木たかし

- ♪ 安井小学校 校歌
作詞：薄田泣菫
作曲：永井幸次 (大阪音楽学校 (現大阪音楽大学) 校長)

2014 年 1 0 月 2 5 日 (土)

第 2 回 **作詞家を生み出す街 西宮**

… 岩谷時子、喜志邦三

講師 **河内 厚郎** (文化プロデューサー)

夙川公民館 講堂

① 岩谷時子 (1916～2013)

浜脇小学校 → 安井小学校 → 市立西宮高等女学校 → 神戸女学院大学部英文科
→ 宝塚歌劇団出版部・『歌劇』編集長 → 越路吹雪のマネージャー・東宝文芸部・作詞家
→ 2009年文化功労者 → 2010年岩谷時子賞創設

作詞 「ふりむかないで」「恋のバカンス」(ザ・ピーナッツ)
「ウナ・セラ・ディ東京」「夜明けのうた」(岸洋子)
「逢いたくて逢いたくて」(園まり)
「君といつまでも」(加山雄三)
「恋の季節」(ピンキーとキラーズ)
「ほんきかしら」(島倉千代子)
「ベッドで煙草を吸わないで」(沢たまき)
「男の子の女の子」(郷ひろみ) ほか

訳詞 「愛の讃歌」 「ラストダンスは私に」
「ろくでなし」 「サン・トワ・マミー」
「マイ・ウェイ」 「百万本のバラ」
「王様と私」(ミュージカル) 「ウエストサイド物語」(ミュージカル) ほか

② 貴志邦三 (1898～1983)

3頁(西宮文学回廊)を参照

③ 高田直和 (1929～2010)

昭和54年、作詞した「おもいで酒」(小林幸子、作曲した梅谷忠洋は今津中学卒業生)が大ヒット、日本作詞大賞大衆賞。朝日放送事業局次長。退職後、<オフィス・タカダ>を設立。平成8年度西宮市民文化賞受賞。

④ 麻生香太郎 (1952～)

甲陽学院卒業生
「ひと雨くれば」(小柳ルミ子)
「新宿・みなと町」(森進一)
「あゝ甲子園」(三波豊和)
「桜景」「四季のさくら」(森公美子)
… NHK朝の連続テレビ小説『さくら』(2002年)挿入歌

○ ^{すすきだきゆうきん}薄田泣菫 (1877～1945)

明治を代表する詩人。大正以後は随筆家。大阪毎日新聞社学芸部部长。分銅町に住む。

「西宮市立安井小学校 校歌」
「西宮市立夙川小学校 校歌」

安井小学校 校歌

作詞…薄田泣菫
作曲…永井幸次

1 大空高く 太陽の
光あふるる 西宮
ここなる大き 学園に
学ぶ我らは野の若木
若き木なればすくすくと
培われつつ 伸びゆかん

2 北には広田 南には
戎の社 あるところ
ここなる清き 学園に
遊ぶ我等は 若き鳥
若鳥なれば はつらつと
羽ばたき歌う 空をみて

3 かくてぞ我等 たゆみなく
精神を高め 身をきたえ
天賦の性を 展ぶるにも
雄々しく強き 子とならん
強き子なれば 双肩に
祖国も負わん 後々は

夙川小学校 校歌

作詞…薄田泣菫
作曲…永井幸次

一、武庫の山脈(やまなみ) 武庫の海
海山秀(ひい)ず 西宮
此処(ここ)に鍛(きた)うる 我等(われら)こそ
その秀麗(しゅうれい)を 身にしめて
強く正しく 伸びゆかん

二、蛭子(ひるこ)の神の 昔より
歴史は長し 西宮
此処にいそしむ我等こそ
その伝統を うけつぎて
更に一步を 先んぜん
おお祖国 祖国の愛児

甲子園口・柳の並木

喜志 邦三

①

京都に住む長男がやってきて、
「国電が武庫川を西へ渡ると、南へひろがる家々が見える。その途端、ふるさとへ帰りたいのだという気持ちになる。」と言った。南へ
のびる家並みとは甲子園口のことである。

横浜にいる二男と大阪南郊に住む三男に
「ふるさととは？」と言われた瞬間、目に浮かぶのぼろだ。と電話できいてみた。
「新堀川（俗稱ホムシレナガ）とその柳並木だ」とふたりとも同じことを答えた。甲子園口一丁目と二丁目を縫って南へ流れる小川の風景が、彼らのふるさとなのである。それ以来私は、子供達の忘れ得ぬふるさとが、甲子園口という特別な場所であることを知った。私自身、五十年近く定住して、西宮

全域を、漠然と心のふるさとと考えていたのだが、この子供達の言葉によつて、甲子園口に対する私の愛着が、~~三~~倍（三）倍になった感じである。あるいは、これもふるさと再発見ということになるかもしれない。

A4 20x20

コクモ

西宮を愛す

思い出の町よ

岩谷時子

今までの私の人生のなかで、いちばん思い出多い幼年期と少女期を西宮ですごした私は、西宮という字を見るだけで、砲台があった夏の海や、十日戎のお祭りや、近所に住んでいた誰彼の顔が螢火ほたるびのように、臉に浮かんでくる。

それも戦前の、今から二十余年も昔のことだから、記憶のなかのものは、すべて、もう面影すらも、とどめていまいと思えば尚更に、又たまらなくなつかしい。

私が入学した、水抜小学校（現在の浜脇小学校）辺りは、どんなになつてゐるのだろう。学校の前に「ぜんべえ」と呼んでいた店があったが、あれは何を売る店だったのだろうか。年齢に達しない私を、毎日小学校へ連れてゆき、教室で一緒に座らせておいてくれた、八重子さんという近所の小学生のお姉さんは、どんな一生を送っておられるのだろう。私たち親子三人が住んでいた夙川の家は、空襲で焼けてしまっただろうか、家の前を流れていた、あの小川は…、と思ひ出せば限りもなく、昔のままのたまたまに、西宮の町を戻せるものなら、とんで行って、見たいもの、逢いたい人ばかりである。

まだ夙川を螢が飛び交い、川の流れにめだかが泳いでいた、美しい抒情的な西宮の風物が、幼かった私のこころに根をおろし、後年、作詞家となる運命

に、みちびいたのではなからうかと、今でも思うことがある。

小学校の頃、家の隣りの二階に、一人の演歌師が間借りをしていたことがあった。彼の名も顔も、全く覚えてはいないが、日が暮れると、かならずパイオリンをキーコ、キーコと鳴らしながら唄っていた歌だけは、不思議にはつきり覚えていた。その歌は歌詞らしい歌詞もなく、ただ節をつけて「カンカンツクルン、ツクルン、チャイナマーブルのホイホイ」と、くり返しくり返しくうたう歌だった。「カンカンツクルン」とは何のことか理解に苦しむが、パイオリンが奏でる、そのメロディには、この言葉以外はないと思われるくらい、よく合っていて、少女の私は、毎晩この、どこか哀調を帯びた節まわしに、きまはれたものだった。彼のことを家で話すとき「カンカンツクルンがねえ……」と、それを彼の呼び名にしていたが、あるいは彼は、放浪の即興詩人であったのかも知れない。

十日戎のお祭りに、西宮の町では今も、門に立てた男松女松の松かざりを逆さに立てているのだろうか。この日、戎様をのせた馬が町を駆けぬけるので、馬の目をささぬよう、松の葉を下に向けると、幼い日に教えられたが、なんと、やさしい町の風習であろう。

私の思い出のなかの西宮は、いつまでも、このような、やさしい歌を、私のこころのなかで「カンカンツクルン、ツクルン……」と、歌いつづけているのである。



岩谷時子 作詞家 神戸女学院英文科卒 39・41年度レコード大賞作詞賞受賞「夜明けの歌」ウナ・セラ・ディ東京「君といつまでも」逢いたくて」などに対して）41年度芸術祭文部大臣奨励賞受賞
昨年「詩集・愛の讃歌」出版
東京都太田区東雪谷5・25・2

グラフ西宮 1968年

文学作品の舞台になった西宮を訪ねて

西宮文学回廊

作者で選ぶ 作品で選ぶ 地域で選ぶ 西宮ゆかりの作家 西宮文学案内 西宮文学回廊について お問い合わせ

喜志邦三 (堺市出身)

プロフィール 1898年 3月1日 - 1983年 5月2日

昭和時代の詩人。
新聞記者をつとめたのち、大正14年から神戸女学院で教える。
三木露風の「未来」に加わり、詩集「墮天馬」「交替の時」「雪をふむ登音」、評論集「現実詩派」「木曜詩話」などを発表。昭和14年NHK放送文芸賞。
歌謡曲「春の唄」「踊子」なども作詞。

学歴

早稲田大学英文学科

文学賞

NHK放送文芸賞

主要作品

詩集

「墮天馬」
「交替の時」
「雪をふむ登音」

歌謡曲

「踊子」
「春の唄」

出典

「喜志邦三」『kotobank』
URL:<http://kotobank.jp/>

西宮とのかかわり

大正14年から神戸女学院でおしえる「春の唄」歌詞 北昭和町在住 歌の第二節は、北口界隈の市場を心において作詞 昭和12年(1937)に「国民歌謡」の1つとしてとして発表された。

- 1 ラララ 紅い花束 車に積んで
春が来た来た 丘から町へ
すみれ買いましょ あの花売りの
可愛い瞳に 春のゆめ
- 2 ラララ 青い野菜も市場に着いて
春が来た来た 村から町へ
朝の買物 あの新妻の
籠にあふれた 春の色
- 3 ラララ 鳴けよちろちろ巣立ちの鳥よ
春が来た来た 森から町へ
姉と妹のあの小鳥屋の
店のさきにも 春の唄
- 4 ラララ 空はうららかそよそよ風に
春が来た来た 町から町へ
ビルの窓々 みな開かれて
若い心に 春が来た

「春の唄」の歌碑が北口駅とアクタ西宮を結ぶ連絡デッキに設置されている。
西宮市民文化賞受賞(1972年)

関連のある作品

歌謡曲 「春の唄」

関わりのある場所



かつて新聞記者をつとめた後、教鞭をとった神戸女学院。



北口界隈の市場をイメージして作詞された「春の唄」の歌碑(アクタの円形広場にある)

◀ 前のページへ戻る

ふるさとの山 甲山

喜志邦三

〈詩人〉

山は物を言わない

山はそのからだを動かさない

いや 顔の向きさえもかえない

しかし山には心がある 深いところ

君と僕と いま見あげるこの山 甲山

昔もここにあり 今もここにあり

ふるさとの山 甲山

幼い頃 酒倉の町で石けりをした時

ふと見あげたのもこの山だった

十二の歳だったか 春の朝

はじめて金ボタンの制服をつけて

川沿いの道から見たのもこの山だった

楽しかったピクニックの思い出

いちめんに揺れる黄いろい花のむこうに

指さしたのもこの山だった

あれは十七の秋だったか

さまざまの思い出をもって見あげる

君の目に 僕の目に

いつも変らぬ甲山 ふるさとの山

山には心がある 深いところ

